

トップに聞いてみよう 日豊製袋工業 株式会社

vol.3

〒879-0101
中津市今津1101番地の1
TEL.0979-32-0200



代表取締役社長 友松 慶輔 さん

障がい者の可能性に いち早く気づいた創業者

日豊製袋工業は、誰もが一度は目にしたことがあるフレキシブルコンテナバック（様々な原料・製品などの輸送・保管に使われる袋）の製造メーカーです。九州唯一のUN規格認定機関として袋の強度検査も行っており、大分から食品、医療・農業などあらゆる業界を支えているといっても過言ではありません。



▲フレキシブルコンテナバック(ダブル)

草分け的存在としても知られています。現在は従業員53名中17名が障がい者(知的障がい12名、精神障がい1名、身体障がい4名)。定着率も高く、一度入った人はほとんどやめることがないというから驚かされます。それは障がい者雇用という概念が広まる前から独自の障がい者雇用に取り組み、雇用方法を模索してきた成果に他なりません。障がい者雇用を始めたのは創業者である祖父。もう60年近く前のこと。始業前にトラム缶で火を焚いて温まっていたら、毎日火にあたりに来る知的障がいの子がいたそうなんです。その彼に最初は火の番、次に仕事の補助をさせてみたところ、言われたことはきちっと守るし、集中力も高い。教育すれば問題なく働けると確信し、雇用することに。なつたそうなんです。そう話すのは代目社長の友松慶輔さん。日豊製袋工業

経験を積み「日豊流」の障がい者雇用を確立

障がい者雇用に踏み切った後は、実地で多くを学び、試行錯誤しながら、日豊流の雇用方法を確立していったといいます。難しいことはしていません。居場所をつくってあげる、対等に接するなど、ある意味当たり前のことばかり。障がい者には突出した能力を持つ人も多く、環境を整えてあげると、健常者以上に成果を出してくれることも珍しくありません。例えば、集中力が高い人を検査係にすると、普通なら見逃してしまうような細かい糸のほつれや、使用する糸の間違ひなんかを見つけてくれ

る。記憶力に秀でた人は何種類もある糸の種類を全て覚えてくれる。今では質の高い製品をつくるために欠かせない貴重な戦力です。友松社長の言葉からは、障がい者の本当の姿を知ってほしい、そんな思いが真っ直ぐに伝わってきます。

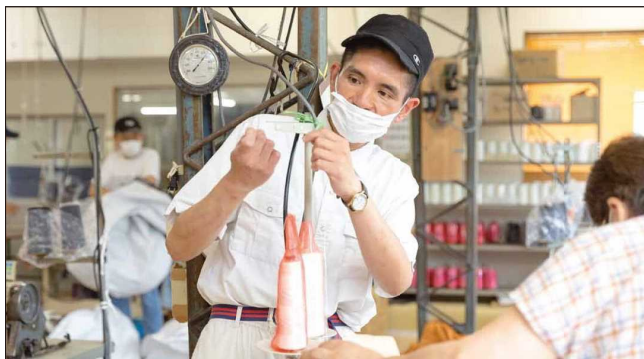
(日豊流)障がい者を雇用する際のポイント

- 業務はできるだけ障がい者本人の興味のあること、好きなことに興味のあること、好きなことには高い能力を発揮する人が多い。
- 障がい者と健常者を区別しない
障がい特性に合わせた配慮は必要だが、それ以外は特別扱いしない。自分たちと同じ一人の人間、相棒という意識を持つことでお互いを尊重できるようになる。
- 障がい者の居場所をつくる
障がい者は自分の居場所を求めている人が多いので、その人専属の持ち場をつくるのが良い。また、仕事ぶりを認め、褒めてあげるとモチベーションが上がる。
- 障がい者・健常者をペアにすることで作業効率アップ
補助的な作業を障がい者が行うことで、全体の作業効率上がる。健常者と障がい者の間に絆が生まれ、コミュニケーションも円滑になる。

また、障がい者には、私生活への配慮も必要だといえます。一仕事が終わると私生活でトラブルに巻き込まれると不

※UN規格:危険物輸送が可能であることを証明する国際規格

安定になります。今はスマホで手軽に買い物したり、ATMで簡単にキャッシングできたりする時代ですから金銭トラブルも少なくありません。様子が変だなどと思ったら声をかけて早めに解決してあげることが大切です。私生活のトラブルに関しては、なかばつなごとの関係機関、保護者とも連携を取りながらフォローをしているそうです。



▲健常者と障がい者がペアを組んで、効率よく業務を進めます。

大切なのは雇用の現場を見ること



▲左から社長、会長の友松三樹男さん、総務の友松江利子さん

最初は関係機関に相談したり、外部のサポートを受けることも多かった日豊製袋工業ですが、現在は特殊な場合を除き、ほぼ自社で対応しているといえます。障がい者雇用について学んだチームリーダーが社内複数いて、ノウハウを伝えてくれるので外部に頼る必要がないんです。健常者と障がい者、障がい者同士のコミュニケーションがスムーズなのも強み。スタッフ同士フォローし合える体制が整っています。障がい者雇用をはじめて半世紀以上。積み重ねた経験は着実に受け継がれ、最

高のカタチで根付いているようです。最後に障がい者雇用に関しては法定雇用率がありますし、助成金も充実しています。でも、ただ働きをやり口にするのと話し話まっとうなことが多い。実際に障がい者雇用に取り組んでいる企業を訪ねたい面も、大変な面も全て見せてもらった上で検討するのが一番いいと思います。もちろん、うちも見学を受け付けています。ヒアリングをくれた友松社長。障がい者雇用のリアルな現場には言葉だけでは伝わらない多くの気づきと驚きそして感動があります。



▲スタッフは障がいがあり・なしに関係なくまるで家族のような関係。休憩中は楽しい会話で盛り上がることもしばしば。

Voice 岩久 茂史さん 入社:26年目・知的障がい

中学卒業後すぐに入社したので、26年目になります。ずっとコンピューターマシンで袋(フレコンバック)にベルトをつける作業を担当しています。もうベテランかな(笑)。気をつけているのは、雑になつたり、失敗したりしないよう、縫う前に必ず見本を確認すること。トラブルや分からないことがあつたらすぐに報告することも心がけています。この作業が好きだし、先輩に教えるのもすごく楽しいです。歴史に興味があるので、休みの日は古代遺跡や歴史的建造物の整備を手伝いに行つてリフレッシュしています。

